

# 足立小だより

学校ホームページ <http://www.kita9.ed.jp/adachi-e>

北九州市立 足立 小学校  
平成30年度 学校通信  
〈10月増刊号〉  
平成30年10月31日  
文責 校長 城戸 祥次

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

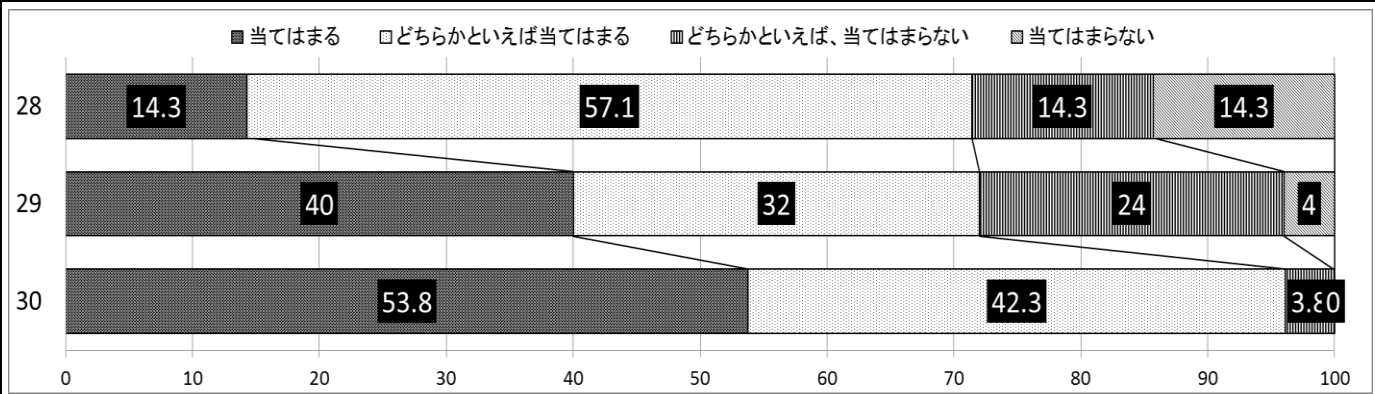
### 1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 全国平均よりも、下回る。また、全国平均との差が大きい問いは、無回答率も高かった。</li><li>○ 「話すこと・聞くこと」については、全国平均と同等であった。「書くこと」については全国平均を下回るため、書く力の育成を図る必要がある。</li></ul>
国語B	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 全国平均よりも、下回る。また、全国平均との差が大きい問いは、無回答率も高かった。</li><li>○ 特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」に係る問題に課題が見られる。そのため、「話し慣れる・聞き慣れる」ことや「読書」を推進していく必要がある。</li></ul>
算数A	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 全国平均よりも、下回る。また、全国平均との差が大きい問いは、無回答率も高かった。</li><li>○ 特に「数量や図形についての技能」に関する問題の正答率が低かったため、三角定規や分度器を正しく使ったり、グラフを正しく書いたりする技能を高めていく必要がある。</li></ul>
算数B	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 全国平均よりも、下回る。</li><li>○ 特に「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」に関する問題の正答率が低かったため、問題を解く際にも、図やグラフをつかたり、問題の解き方を説明する活動を多く設定する必要がある。</li></ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 全国平均よりも、下回る。</li><li>○ 特に「主として知識に関する問題」についての正答率が低い。その中でも「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」についての正答率が低かったため、観察や実験の際に手順を徹底して、正しい知識・理解を獲得できるようにしていく必要がある。</li></ul>

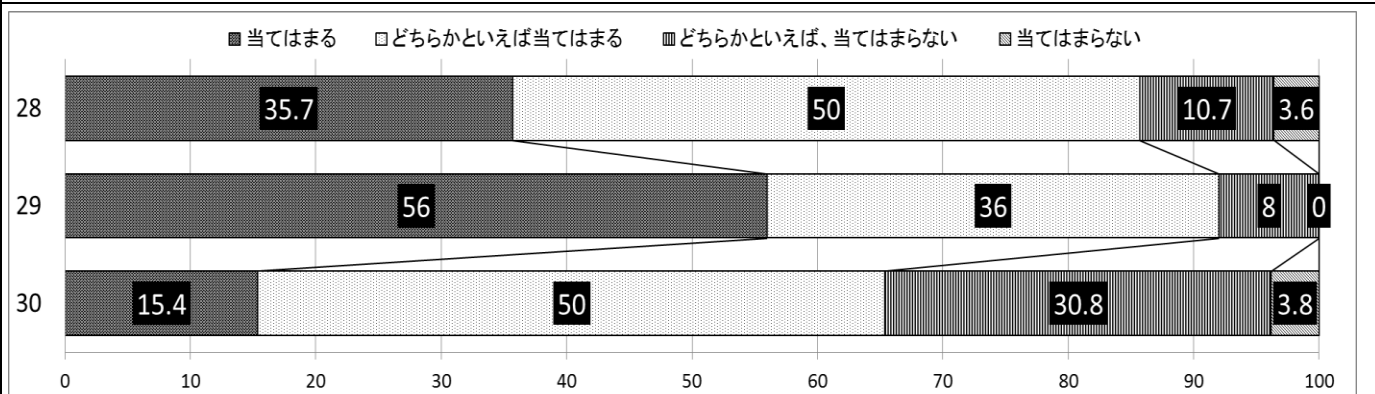
### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 基本的な生活習慣が向上している。朝食の摂取率も増加している。</li><li>○ 課題を見付け、自分で考えたり、友だちと話し合ったりして解決しようとする児童は増加傾向にある。</li><li>○ 友だちとの話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。【グラフ①】</li><li>○ 地域について学習をしたり、地域と関わったりする機会はたいへん多い。また、地域や社会で起こっている問題や出来事への関心も高い。</li><li>● 自己肯定感が低い。【グラフ②】</li><li>● 規範意識が低く、学校の決まりを守ることができていない。【グラフ③】</li><li>● 家庭での学習時間は、全国平均と比べると低いが、少しずつ家で計画を立てて学習したり、毎日欠かさず宿題をするようになってきている。</li></ul>

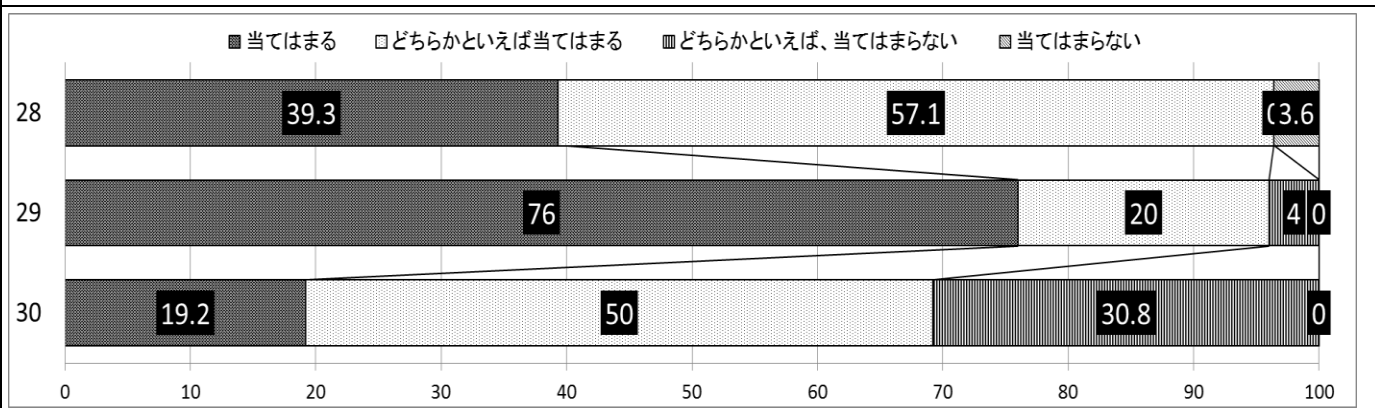
【グラフ①】 友だちとの話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。



【グラフ②】 自分には良いところがあると思いますか。



【グラフ③】 学校の決まりを守っていますか。



### 3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 基本的な「読む」「書く」「計算」の力を、どの教科においても着実に伸ばしていく必要がある。そのために、日頃の授業では「根拠を示して説明すること」、チャレンジタイムでは、音読、漢字、計算に計画的に取り組ませ、習熟を図ることで、基礎・基本の力が定着するように努める。
- 「わかる授業」づくり5つのポイントを徹底した学習展開を行う。また、望ましい授業のあり方をテーマとした主題研究に全職員で取り組む。さらに「思考の流れ」が分かるノート作りにも取り組む。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「10分×学年+10分」という学習時間を考えた宿題の出し方を担任が行い、保護者の理解を得、家庭と連携していくことができるようにする。
- 宿題の点検はその日のうちに行い、適切な評価を加えてから返す。
- 家庭学習が計画的にできるように、高学年には自分で家庭での学習計画を立てて取り組ませ、その成果を確認し、励ましていくようにする。